

## 第3章-2. 日本仏教史

### 1. 仏教の受容

※仏教公伝……6世紀、朝鮮半島の百済から

538年説……「上宮聖徳法王帝説」（聖徳太子の伝記、824年以降成立）

552年説……「日本書紀」

◎ 聖徳太子 (574-622、厩戸皇子)

・ 十七条憲法 ……施政方針(604)

第1条 和を以て貴しとなし、忤うること無きを宗とせよ。

(=儒教的身分秩序+日本的忍従・調和)

第2条 篤く 三宝を敬え。三宝とは 仏・法・僧なり。

・ 『三経義疏』 ……法華経、維摩経、勝鬘経の注釈

大乘仏教の基本精神をのべ、真理は日常生活の中に実現される、と説く。

但し、内容は6世紀頃に中国で書かれた文とほぼ同文。太子の著作というのも怪しい。

・ 世間虚仮、唯仏是真 ……現世はむなしく、仏だけが真実

「天寿国繡帳」（太子の死後、その夫人が作らせたもの）に記された言葉  
太子の仏教的人生観を表した言葉とされるが、これもかなり疑わしい。

### 2. 奈良時代

“鎮護国家” ……仏教は「天下の安泰を祈る」役割

↑ 朝廷の保護（聖武天皇、光明皇后、国分寺、大仏 etc.）

・ 南都六宗 ……仏教研究の学派

法相宗、成実宗、三論宗、俱舎宗、華嚴宗、律宗

◎ 鑑真 (688-763) ……唐僧。753来日

東大寺に日本初の戒壇（正式な僧侶資格=戒を授ける場）を設置。

律宗を伝え、唐招提寺を開く。

◎ 行基 (668-749) ……民衆に布教、道路・橋などの公共施設を作る。

682年、大官大寺で得度、飛鳥寺・薬師寺で法相宗を学ぶ。

彼の行動に従っていた者の中に、許可無くして僧を自称した「私度僧」が多く、  
また、僧尼令は寺外での僧の活動を禁じており、それに違反したとして処分された。

しかし723年の三世一身法以後、彼らが墾田の推進に貢献していることから  
聖武天皇が彼らに接近、大仏造立の協力をもとめる。

745年、大僧正の称号授与。

### 3. 平安時代初期

◎ 最澄 (767-822、伝教 大師、804 年入唐、翌門帰国)

- ・ 天台 宗を唐から伝える……6c.、天台智顛(538-597)が大成した宗派  
//
- ・ 法華一乗 (一乗思想)  
法華經(妙法蓮華經、1-2世紀にインドで成立)の大乘精神を仏教の根本とし  
「一切衆生悉有仏性」を自覚して修行すれば皆悟りを開ける、と説く  
→日本天台宗では「山川草木悉皆成仏」とも
- ・ 比叡山 延暦寺 (788年、一乗止観院を創建)を開く  
ここに大乘菩薩戒壇を設置→最澄の死後勅許  
→鎌倉仏教の祖たち(一遍を除く)もここで学ぶ
- ・ 著書『顛戒論』、『山家学生式』(学生の規則と教育方針)

◎ 空海 (774-835、弘法 大師、804 年入唐、806 年帰国)

- ・ 真言 宗を開く  
真言=サンスクリット語(梵語)の「マントラ」(=神に呼びかける呪文)  
唐で密教第一人者の恵果のもと、密教の金剛界、胎藏界両方の秘法のすべてを授かる。
- ・ 高野山 金剛峯寺、京に 教王護国寺(東寺) を開く
- ・ 三密  
身に印を結ぶ  
口でマントラを唱える  
心で 大日如来 (宇宙の原理を示す最高仏) を思い描く  
↓  
その修行によって“即身成仏”が可能となる  
(生きながら大日如来と一体化して清らかな命を力強く生きられる)
- ・ 著書『三教指帰』……儒教・道教よりも仏教がすぐれている  
『十住心論』……悟りへの道程を説く
- ・ 密教 ⇔ 顕教  
行によってのみ到達できる秘密の教え (顕=あきらか)  
→ 天台宗も最初は顕教だったが密教化  
加持祈祷 によって、平安貴族たちの 現世利益 に奉仕

### 3. 平安後期

(1). 末法 思想

- ①. 正法……釈迦の死後 1000 年  
仏教の教え・修行・悟り（教・行・証）とも存続
- ②. 像法……その後 1000 年  
教えと修行はあるが、悟りが得られない（証なし）
- ③. 末法……その後 1 万年  
教えはあるが、修行者も悟りもなし

↓

1052 年から末法に入る、という噂が広まる

↓

(2). 浄土 信仰

死後、極楽浄土 に 往生 することを願う（⇔現世利益）

↓

阿弥陀仏 の救済にすがる

“南無阿弥陀仏” と唱える（念仏）

※阿弥陀仏……法蔵という名の修行者・菩薩であった時、衆生救済の 四十八願を立て、それが達せられないうちは自分も成仏しない、と誓って修行し、ついに成仏した。そのうちの第 18 願が「念仏したものは極楽浄土に往生させる」こと。  
＝「弥陀の本願」

◎ 空也（903-72）……別名 “市聖”

民衆に念仏（口称念仏）を広め、社会事業と貧民救済に尽くす

◎ 源信（942-1017）……恵心僧都

※「観想」と「口称(称名)」の 2 種の念仏を論じたが、  
「観想念仏」（心に仏を想う）を重視

著書『往生要集』（985）

“厭離穢土”（おんりえど）……汚れたこの世を離れ

“欣求浄土”（ごんぐじょうど）……極楽浄土往生を求める

↓

貴族社会に浄土思想を広める → 藤原頼通の「平等院鳳凰堂」造営

## 4. 鎌倉仏教

基本的に庶民対象……<sup>せんちやく</sup>選 択 (1つを選ぶ)、<sup>せんじゆ</sup>専 修 (それに専念する)・<sup>いぎよう</sup>易 行 (易しい修行)

※一遍以外の5名はいずれも比叡山に学ぶ

(1). 浄土教系……念仏を唱える。他力本願。農民に広まる。

◎ 法然 (1133-1212)……浄土宗の祖、主著『選択本願念仏集』

中国浄土教の祖・善導 (613-81) の著作中に

「一心に専ら弥陀の名号を念ず」という文に出会う

念仏のみを正行とし残りは余行とする = <sup>せんじゆねんぶつ</sup>専修念仏

<sup>くしょう</sup>口称念仏 (称名念仏、口で南無阿弥陀仏と唱える) だけを重要視

※讃岐に配流

◎ 親鸞 (1173-1262)……浄土真宗の祖、主著『教行信証』

**絶対他力**……阿弥陀仏の働きに全てをまかせる<sup>しねんほうに</sup>**自然法爾**のあり方のみが往生の道

「念仏を唱えようとする心」がおこるのも阿弥陀仏の力による

※ルター……神の力無しでは善意志もない

自ら肉食妻帯、在家と出家を区別する従来の考え方を批判 ※越後に配流→常陸

弟子 唯円 (現・水戸市河和田の人) の著書『歎異抄』

前半10章は親鸞語録、後半8章は異説への批判慨嘆

・ 悪人正機 説

善人なほもて往生をとぐ、いはんや悪人をや。

しかるを世の人つねにいはいく、悪人なほ往生す、いはんや善人をやと…

自力作善の人……「他力をたのむところかけたるあひだ、弥陀の本願にあらず。」

煩惱具足の凡夫……「他力をたのみたてまつる悪人、もつとも往生の正因なり。」

(救済の主対象)

※ただし「本願ばかり」(悪をなせば救われると考える) はダメ

◎ 一遍 (1239-89、遊行上人・捨聖…地位財産全てを捨てて遊行)

スローガン「往生の時機を失すべからず」……時宗の祖

・ 踊念仏……往生できる喜びを表現

(2). 法華經信仰……題目を唱える。他力本願。日本独自のもの。

◎ 日蓮 (1222-82)……日蓮宗の祖

法華經(妙法蓮華經)を最高の教えとする

その題目を唱えれば(唱題)救われる“南無妙法蓮華經”

主著『立正安国論』……北条時頼に献じた論策、国難到来予言

しかかくげん四箇格言……他宗派を批判(しやくぶく折伏・相手を論破する)

「念仏無間、禅天魔、真言亡国、律国賊」

※上記に天台宗は含まない(同じ法華經信仰だから)

↔のち室町時代に「天文法華の乱」(1536)で、

比叡山が本能寺ら京都市内の日蓮宗の寺院を焼き討ち

現世主義……救いを来世に求めるだけでなく、

この現世を法華經信仰によって仏国土へと転換すべき。

(3). 禅宗系……坐禅。自力本願。武士に広まる。

◎ 荣西 (1141-1215)……臨濟宗の祖、主著『興禅護国論』

南宋に渡り臨濟宗(唐の臨濟義玄を祖とする)を学ぶ

坐禅をしつつ師から与えられた公案を考かんえる(看話禅)→禅問答

臨濟僧により多くの中国文化が日本へ(茶・水墨画・建築 etc、少し後には朱子学も)

=科挙受験生(士大夫)階級の文化

→日本の武家社会に受容され、幕府の保護を受ける

◎ 道元 (1200-53)……曹洞宗の祖、主著『正法眼蔵』

南宋から曹洞宗を伝えこれを深化させる

・只管打坐……ただひたすら坐禅するのみ(修行)

//

・身心脱落……邪念から自然に離れた境地(悟り)

※修証一等……修行の状態がそのまま悟りの状態でもある

→西田幾多郎の「主客未分の純粹経験」

(4). 旧仏教

華嚴宗……高弁（明恵上人、1173-1232）

律宗 ……叡尊（1201-90） 下層民の救済事業

忍性（1217-1303） 北山十八間戸（ハンセン病患者などの救済施設）創設

## 5. 室町時代の仏教

◎ 蓮如（1415-99）……浄土真宗

平易な文章（御文）で農民に教えを説き、信者の共同体（講）を組織  
→ 寺内町を形成 → 一向一揆

◆ 臨済宗……鎌倉時代に引き続き幕府の保護

五山の制（京都五山、鎌倉五山）

五山の僧は、漢文・朱子学・山水画・茶など

中国の科挙知識人階級の文化の中心に

## 付：神道と仏教・儒教

・ 神仏習合

①. 本地垂迹説 ほんじすいじやくせつ（平安末期）……仏教が主（本地）。神の現世利益は仏の慈悲。

密教と神道……山王神道（天台宗）、両部神道（真言宗）

②. 伊勢神道（鎌倉末期）……反本地垂迹説（神道が主、仏教が従）。度会家行。

③. 吉田神道（室町中期）……反本地垂迹説。吉田兼俱。

神を根本に置き、儒学や仏教は神道の果実である、とする。

・ 垂加神道（江戸初期）……山崎闇斎による。朱子学と神道の融合。

・ 復古神道（江戸中期）……平田篤胤による。国学と神道の融合。

儒教・仏教を排斥。日本固有の神道への復帰を主張。